

## 編集後記

今号は、巻頭に青木栄一先生のご講演録「文部科学省の教育ビジョンを読み解く」を掲載しました。日本国が学制 150 年を迎えた記念に相応しい講師を望んでいたところ、幸運にも『文部科学省 揺らぐ日本の教育と学術』(中公新書 2021 年)の著者がお引き受けくださいました。そして勤労感謝の日に、中央教育審議会の臨時委員も務められる先生から時宜に合った興味深いお話を本学の教職員と学生が教育事情に関心を寄せる市民の皆様とご一緒に伺いました。

文部科学省 HP 学制 150 年記念式典には「学制は、すべての人々が基本的な学校教育を受けられることを目指し、小学・中学・大学から成る学校制度を定めた、我が国最初の全国規模の近代教育法令です。」とあります。1872 (明治 5 年) の学制公布以来、明治・大正・昭和・平成・令和と時代は流れ、震災や戦争の荒波も受けましたが、学校教育は存続されています。

ご講演前にゼミの研修旅行で福井県教育総合研究所教育博物館を訪れ、学制 150 年記念企画展「学校 150 年物語」を学生と見学しました。日本国が「邑に不学の戸なく家に不学の人なからしめんことを期す」を標榜し、身分や男女の区別なく国民皆学を実現させてゆく姿が、県内の学校教育の変遷を記録した写真や教科書、校舎や給食のレプリカから窺えました。

「国家百年の計」の根幹たる学校教育の来し方を振り返り、行く末を展望することは大切です。まず歴史的な知識を得るためには、教育博物館発行の『学習まんが学校 150 年物語』が理解し易い教材でお勧めです。案内役きんじろうくん (二宮尊徳) が可愛らしく、最終頁の説明「現在では教具や教材も進化し、プログラミング教育が小学校で必修となるなど、時代とともに学び方や学習の内容は変わっていくけど、昔も今もこれからも、子どものすこやかな成長を支えることが、学校教育の中心であることは変わりません。」が胸に響きました。

今号は、ご講演録 1 件をはじめ、こども学科 1 件、スポーツ学科 2 件、人文学部 1 件、合計 5 件の投稿がありました。

どうぞご高覧ご批評くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2023 年 9 月吉日

編集委員長

馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は、基本的に人間科学部に帰属します》

「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については、下記の WEB サイトをご覧ください。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>